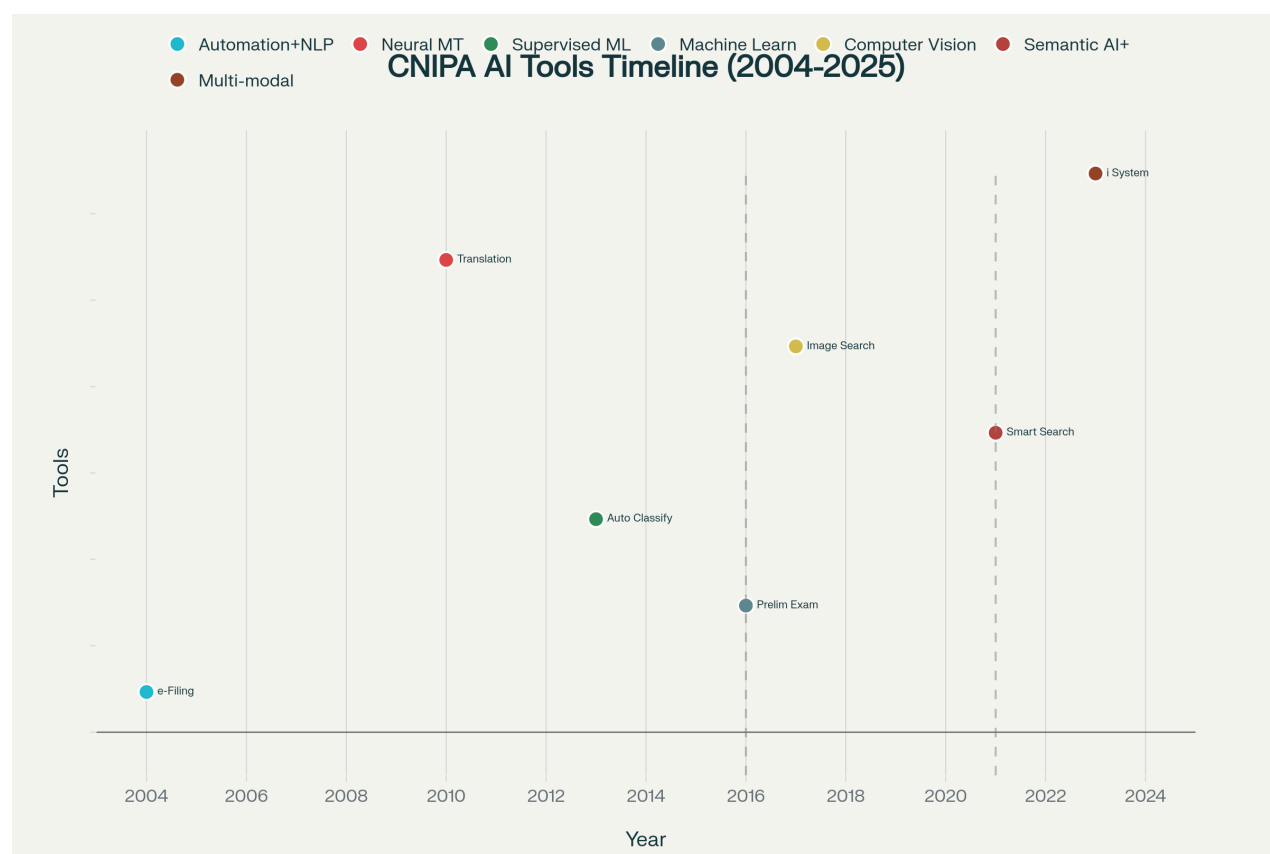




中国特許庁における生成AIの活用状況：米国特許庁戦略転換の影響を含む包括的分析

中国国家知識産権局（CNIPA）は2025年現在、世界最大の特許処理能力と最も包括的なAI統合戦略により、国際的な知的財産システムにおいて独特の地位を確立している。特に2025年1月のUSPTO戦略転換により、CNIPAは従来の量的拡大路線から質的向上重視への政策転換を加速させ、大規模AIモデルの特許審査への統合を急速に推進している。^{[1] [2] [3]}



中国特許庁(CNIPA)のAIツール開発進展タイムライン（2004-2025年）

CNIPAのAI戦略：国家産業政策統合型アプローチ

戦略的基盤と政策統合

CNIPAのAI戦略は、中国の国家産業政策と密接に統合された包括的アプローチを特徴としている。2025年3月に発表された「知的財産行政保護工作方案」では、人工知能分野の知的財産保護強化と「人工智能相關發明專利申請指引」の宣伝・実施強化が重点目標として掲げられている。^{[4] [1]}

この戦略的アプローチの核心は、CNIPAが単なる特許審査機関ではなく、国家のイノベーション戦略実現のための政策実行機関として機能していることにある。同庁は特許出願の処理から執行、国際協

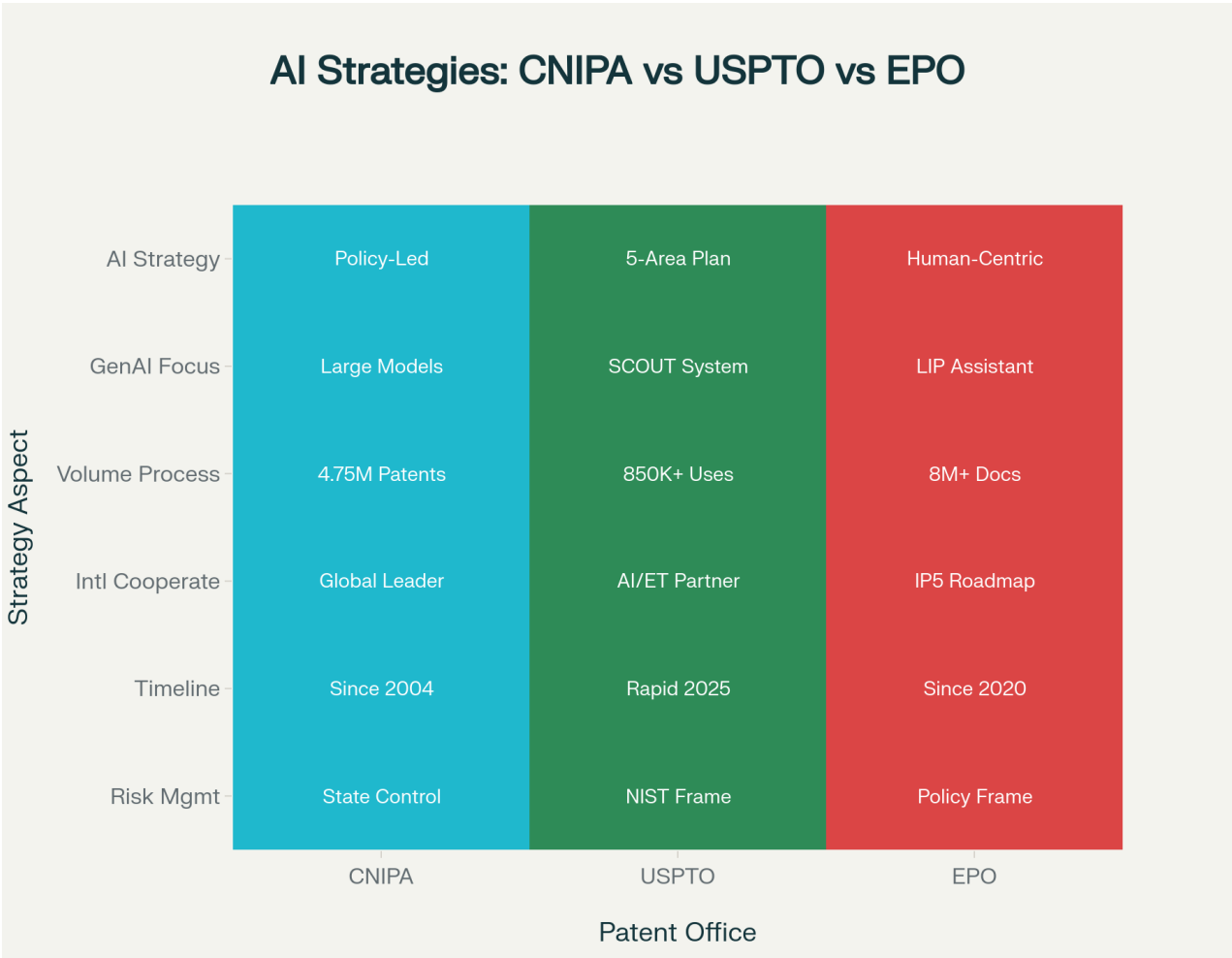
力まで、知的財産のライフサイクル全体を管轄し、中国のAI産業発展を支援する統合的な生態系を構築している。^[5]

2025年AI作業計画の重点項目

CNIPAの2025年作業計画では、AI分野における具体的な目標が設定されている。第一に、発明特許審査期間のさらなる短縮（15か月目標）。第二に、AIモデルの審査業務への応用加速。第三に、商標ブランド戦略の深化実施による「国潮ブランド」創出促進。第四に、対外知的財産保護の全面強化である。^[6]

特に注目すべきは、CNIPAが「大規模AIモデルの特許審査への応用探索」を明確に表明していることである。これは従来の機械学習ベースのツールから、より高度な生成AI技術への転換を示している。^{[1][12]}

生成AI技術の実装：段階的進化から急速統合への転換



世界三大特許庁のAI戦略比較（CNIPA・USPTO・EPO）

China Patent Intelligent Examination System (i System)の進化

CNIPAの生成AI活用における中核システムが、2023年に本格運用を開始した「China Patent Intelligent Examination System (i System)」である。このシステムは発明特許、実用新案、意匠、PCT、ハーグ協定出願など、特許ライフサイクル全体をカバーする統合プラットフォームとして設計されている。^[3]

i Systemの技術的特徴は、セマンティック検索、組み合わせ検索、機械翻訳を統合したマルチモーダル大規模言語モデルの活用にある。システムは従来のブール検索とセマンティック検索を組み合わせることで、国内出願において31.6%、PCT出願において25%の見逃し率削減を実現している。^[3]

生成AIの特許審査への応用展開

2025年6月のCNIPA記者会見では、「近い将来、特許審査業務における人工知能の応用をさらにアップグレードし、先行技術検索の精度向上により審査官がより良い発明構想の理解と迅速な技術分析を行えるよう支援し、審査の質と効率向上により強力な支援を提供する」と発表された。^[2]

しかし重要なのは、CNIPAが「AI生成結果を直接審査意見として使用することはできない」と明確に規定していることである。これは生成AIを審査支援ツールとして位置づけ、最終的な審査判断は人間の審査官が行うという原則を維持していることを示している。^{[7] [2]}

生成AIに対する品質管理と規制

CNIPAの生成AI活用における特徴的な側面は、厳格な品質管理体制の確立である。2025年6月、南京知識産権保護センターは特許出願書類作成における生成AI使用を禁止すると発表した。この措置は、「関連内容が人工知能により直接生成されたと判定された」ことを理由としている。^[8]

禁止事項には、AI生成内容の直接使用、AIによる研究開発証拠材料の生成、実験データ報告書や技術研究文書の自動生成が含まれる。違反の結果として、予審案件の不承認、予審サービス資格の一定期間停止、特許法違反として行政処罰の推薦などが規定されている。^[8]

CNIPAの既存AIツール群：包括的統合システム

特許分類・検索システムの高度化

CNIPAのAI活用において基盤的役割を果たしているのが、2013年から運用されているIPC自動分類システムである。このシステムは96%の高精度を実現し、すべての新規出願に対して自動分類を実行している。^[3]

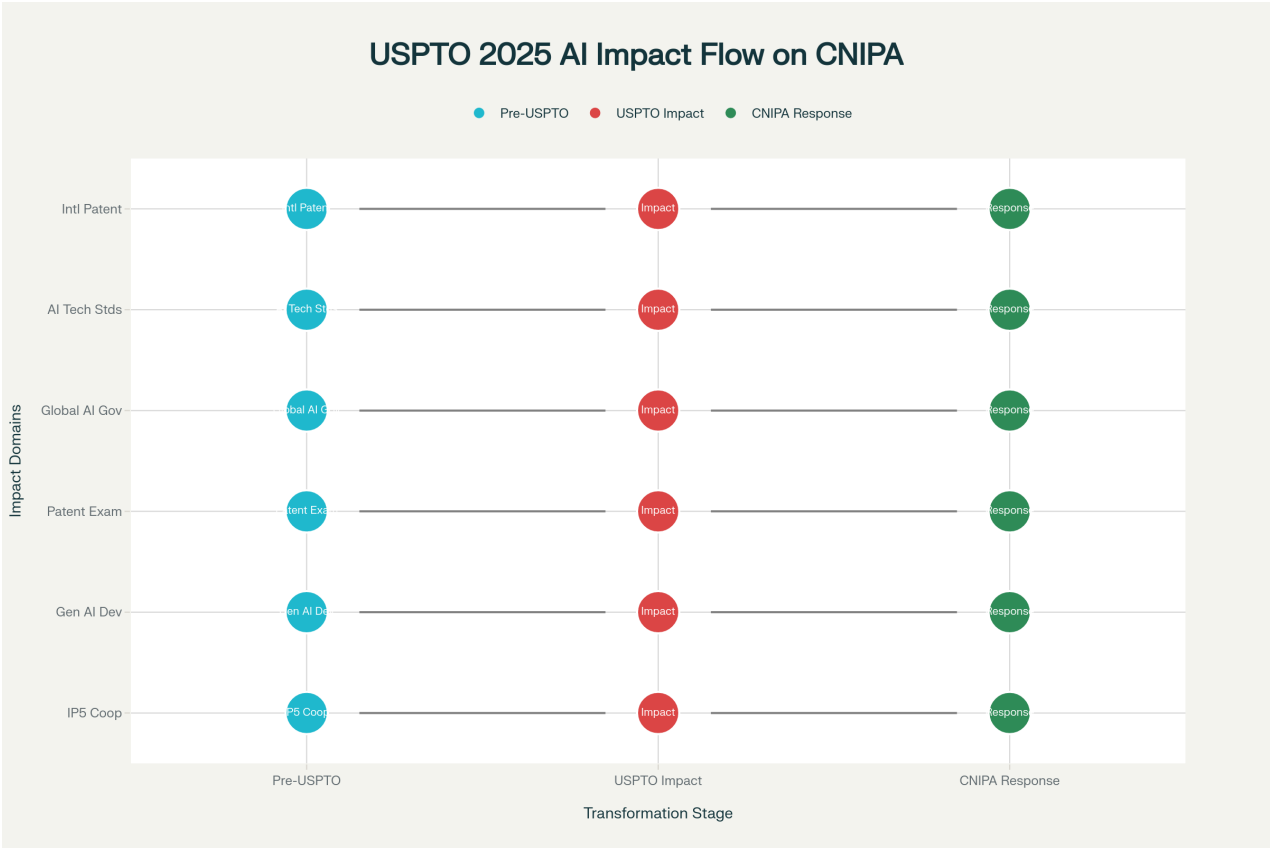
2021年に導入された知能検索システムは、セマンティック検索とブール検索の組み合わせにより、従来システムと比較して検索性能50%向上、閲覧性能90%向上を実現している。システムはAI、ビッグデータ、クラウド技術を統合し、非特許文献検索、セマンティックキーワード拡張、機械翻訳機能を提供している。^[3]

画像検索・機械翻訳技術

2017年に導入された画像検索システムは、意匠特許審査において革新的な機能を提供している。システムは多視点検索、部分検索、線画検索をサポートし、背景色修正、影除去、部分類似性、マーカー追加、画像回転、解像度削減、色画像線形化などの画像処理機能を持つ。上位30検索結果において90%の先行技術発見率を実現している。^[3]

機械翻訳システムは2010年から段階的に拡充され、現在では13の英語全文原データベースと21の非英語全文原データベースをカバーしている。英中相互翻訳機能と即時翻訳ツールにより、34以上の言語に対応する多言語特許処理能力を提供している。^{[9] [3]}

米国特許庁2025年AI戦略転換の中国への影響



USPTO 2025年AI戦略転換がCNIPAに与える影響分析

国際特許競争環境の変化

USPTOの2025年1月AI戦略発表は、CNIPAの戦略的位置づけに significant な影響を与えている。従来、CNIPAは特許出願量でのリーダーシップを保持してきたが、USPTOの包括的AI変革戦略により、質的改善への圧力が急激に高まっている^{[10] [11]}

。

WIPOの2024年報告によると、中国系発明者は38,000件以上の生成AI発明を出願し、世界全体の60%を占めている。これは2位の米国（6,300件）を6倍上回る圧倒的な数量的優位性を示している。しかし、USPTOの戦略転換により、単純な数量競争から技術的洗練度と実装効果での競争へとパラダイムが変化している。^{[10] [11]}

生成AI開発競争の激化

USPTOのSCOUTシステム企業全体展開とDesignVisionの成功により、CNIPAは生成AI分野での技術格差解消を急務としている。2025年7月の世界AI会議では、Li Qiang首相が新たなグローバルAI協力機関の設立を提案し、上海を拠点とした国際機関によるAI開発・規制の国際協調を推進すると発表した。^{[12] [13]}

この提案は、USPTOの政策リーダーシップに対抗する中国の戦略的対応として解釈される。

「Global AI Governance Action Plan」の13項目行動計画は、インフラ開発、セクター別応用、データ品質・安全性、オープン・包括的エコシステム、持続可能性、国際協力による格差解消を包含している。^{[14] [15] [12]}

IP5協力体制への戦略的影響

USPTOの戦略転換は、IP5協力体制におけるCNIPAの位置づけにも変化をもたらしている。従来の技術協力重視から、より積極的な戦略的ポジショニングへの転換が観察される。CNIPAは2025年末までの審査期間15か月短縮目標を設定し、世界最速の審査速度維持を図っている。^[6]

同時に、大規模AIモデルの特許審査統合研究への投資増加、国際協カイニシアチブの強化、政策フレームワークの整備を通じて、USPTOの「加速されたAIイノベーション競争」に対応している。^{[11] [2] [14]}

世界三大特許庁の戦略的差異と相互影響

技術アプローチの根本的相違

CNIPAとUSPTO、EPOの間には、AI技術活用における根本的なアプローチの相違が存在する

。CNIPAは国家産業政策統合型の包括的AI統合を推進し、世界最大の475万有効発明特許ポートフォリオを管理している

。USPTOは5重点領域での包括的変革戦略により、SCOUT生成AI企業展開を実現している。EPOは人間中心的风险ベース段階的統合により、2025年2月のLIP生成AI法務アシスタント導入を成功させている。

実装タイムラインにおいても明確な差異が見られる。CNIPAは2004年以降の段階的進化を2020年以降加速させている。USPTOは2025年の急速変革戦略を採用している。EPOは2020年以降の確立されたツール継続拡張アプローチを維持している。

パフォーマンス指標での比較優位性

統計的比較では、各庁の異なる強みが明確に現れている。AI特許出願リーダーシップでは、CNIPAが38,000件以上の生成AI発明（世界シェア60%）で圧倒的優位性を示し、USPTOが6,300件（世界2位）、EPOが significant な成長を記録している。

審査速度では、CNIPAの15.5か月（世界最速）がUSPTOの26.2か月平均係属期間を大幅に上回っている。言語サポートでは、CNIPAの34以上言語機械翻訳とEPOの32言語Patent Translateが、主に英語に焦点を当てるUSPTOより多言語的優位性を示している。

国際協力とガバナンス競争

国際協力においては、各庁が異なる戦略的アプローチを採用している。CNIPAはGlobal AI Governance Action Planでのリーダーシップを発揮し、USPTOはAI/ETパートナーシップイニシアチブを推進し、EPOはIP5 NET/AIロードマップ協力を継続している。

この多極的アプローチは、グローバルAIガバナンスの標準化と断片化リスクの両方を内包している。CNIPAの13項目行動計画は発展途上国への技術移転とキャパシティビルディングに重点を置き、USPTOの戦略は同盟国との技術優位性維持に焦点を当てている。^[15]

今後の展望と課題

生成AI技術競争の加速化

USPTOの戦略転換により、国際特許システムにおける生成AI技術競争が著しく加速化している。CNIPAは2025年末までの大規模AIモデル統合目標を設定し、特許審査における「semantic comprehension capabilities の深化」「先行技術検索効率・精度の向上」「発明性評価支援」「審査通知書・通知生成」を実現しようとしている。^{[12] [13]}

しかし、生成AIの「幻覚」問題、価値不整合、意思決定支援における信頼性確保が重要な課題として認識されている。CNIPAは戦略的展開と将来ビジョンの実現において、これらの技術的制約への対処が不可欠となっている。^[13]

国際標準化と政策調和の必要性

世界三大特許庁の異なるAI戦略は、国際的な技術標準と政策フレームワークの調和という課題を提起している。CNIPAの国家産業政策統合型アプローチ、USPTOの包括的変革戦略、EPOのリスクベース段階的統合は、それぞれ異なる利点と制約を持っている。

IP5協力体制の強化により、これらの差異を調和させ、グローバルな特許システムの効率性と一貫性を向上させることが重要である。特に、生成AI技術の急速な発展に対応した共通の倫理基準と品質保証メカニズムの確立が急務となっている。

質的發展への政策転換の継続

CNIPAは従来の「量重視」から「質重視」への政策転換を継続している。「異常特許申請」に対する厳格な取り締まり、悪質商標登録の撲滅、知的財産分野の信用システム構築強化がこの転換を支えている。^{[14] [12]}

2024年には発明特許許可件数が104.5万件に達し、審査終了精度率が95.2%に向上し、審査品質に対する利用者満足度が86.8%に上昇した。これらの実績は、CNIPAが量的拡大と質的向上の両立に成功していることを示している。^{[16] [13]}

結論

中国特許庁における生成AIの活用状況は、国家産業政策と密接に統合された包括的かつ戦略的なアプローチによって特徴づけられている。2004年からの段階的AI統合から2020年以降の加速的展開、そして2025年の大規模AIモデル統合計画まで、CNIPAは一貫した技術革新路線を維持している。

米国特許庁の2025年AI戦略転換は、CNIPAに質的改善への圧力と生成AI技術での競争激化をもたらしている。しかし、CNIPAは世界最大の特許処理能力、最速の審査速度、最も包括的な多言語対応により、これらの挑戦に効果的に対応している。

特に、Global AI Governance Action Planのリーダーシップ、大規模AIモデルの審査統合研究、国際協力イニシアチブの強化を通じて、CNIPAは単なる技術追従者ではなく、グローバルAIガバナンスの積極的な形成者として位置づけられている。

今後の展開において、CNIPAの国家産業政策統合型アプローチと世界三大特許庁間の協力・競争ダイナミクスが、国際的な知的財産システムの効率性と包摂性向上に重要な役割を果たすことが期待される。生成AI技術の責任ある発展と活用において、CNIPAの経験と取り組みは世界的なベストプラクティス形成に貢献する potential を有している。



1. https://english.www.gov.cn/news/202504/24/content_WS6809f9b6c6d0868f4e8f20a6.html
2. <https://www.chinaiplawupdate.com/2025/06/cnipa-june-2025-press-conference-central-rectification-of-35-firms-with-large-number-of-abnormal-patent-applications-explore-use-of-ai-in-patent-examination/>
3. https://www.wipo.int/edocs/mdocs/wild/en/wild_1/wild_1_t07.1.pdf
4. <https://www.chinaiplawupdate.com/2025/03/chinas-national-intellectual-property-administrations-2025-work-plan-crack-down-on-abnormal-patent-application-and-malicious-trademark-registrations/>
5. <https://www.drugpatentwatch.com/blog/diffusion-convergence-and-influence-of-pharmaceutical-innovations-a-comparative-study-of-chinese-and-u-s-patents/>
6. <https://natlawreview.com/article/chinas-national-intellectual-property-administration-accelerate-use-ai-examination>
7. https://english.cnipa.gov.cn/art/2025/7/23/art_2975_200748.html
8. <https://www.chinaiplawupdate.com/2025/06/nanjings-intellectual-property-protection-center-bans-the-use-of-generative-ai-in-drafting-patent-application-documents-submitted-for-pre-examination/>
9. <https://www.japio.or.jp/english/fair/files/2022/2022e05.pdf>
10. https://www.wipo.int/pressroom/en/articles/2024/article_0009.html
11. <https://www.latimes.com/business/story/2024-07-05/china-is-the-runaway-leader-in-generative-ai-patent-applications-followed-by-the-us-the-un-says>
12. <https://www.ansi.org/standards-news/all-news/8-1-25-china-announces-action-plan-for-global-ai-governance>
13. <https://www.reuters.com/world/china/china-proposes-new-global-ai-cooperation-organisation-2025-07-26/>
14. <https://www.bjia.com/china-unveils-global-ai-governance-action-plan-framework/>
15. <https://www.atlanticcouncil.org/blogs/new-atlanticist/reading-between-the-lines-of-the-dueling-us-and-chinese-ai-action-plans/>
16. https://english.cnipa.gov.cn/art/2025/4/25/art_3090_199315.html
17. <https://www.patoffice.de/en/blog/china-generativen-ki-patente>
18. https://english.cnipa.gov.cn/art/2025/4/30/art_3090_199446.html
19. <https://www.spruson.com/china-guidelines-for-ai-related-invention-applications/>

20. <https://www.spruson.com/china-draft-amendments-ai-bitstream-inventions/>
21. <https://www.hoganlovells.com/en/publications/navigating-ai-patent-applications-in-china-key-insights-from-cnipas-new-examination-guidelines>
22. <https://www.cigionline.org/articles/china-leads-on-generative-ai-patents-but-what-does-that-mean/>
23. https://english.cnipa.gov.cn/art/2025/4/25/art_3090_199316.html
24. <https://www.managingip.com/article/2bckchmnueeiqnhwujev4/generative-ai-patent-data-shows-chinese-universities-dominance>
25. <https://www.chinaiplawupdate.com/2025/01/chinas-national-intellectual-property-administration-issues-guidelines-for-patent-applications-for-ai-related-inventions/>
26. <https://www.nortonrosefulbright.com/en/knowledge/publications/6090af60/prosecuting-ai-related-patents-in-china>
27. https://english.cnipa.gov.cn/art/2025/4/27/art_3090_199397.html
28. https://www.judiciary.senate.gov/imo/media/doc/2025-05-14_testimony_cohen.pdf
29. <https://ipwatchdog.com/2021/01/14/uspto-report-puts-chinese-innovation-growth-context/id=128983/>
30. https://www.jpo.go.jp/e/news/kokusai/cn/document/ai_report_2023_e/cn_ai_report_en.pdf
31. <https://www.uspto.gov/sites/default/files/documents/USPTO-TrademarkPatentsInChina.pdf>
32. <https://ppl-ai-code-interpreter-files.s3.amazonaws.com/web/direct-files/88bb025c2a1ad1ded0a1b880a54e2574/b2824ca9-4413-4664-ab8a-9d6bb700191e/9f0fe071.csv>
33. <https://ppl-ai-code-interpreter-files.s3.amazonaws.com/web/direct-files/88bb025c2a1ad1ded0a1b880a54e2574/b2824ca9-4413-4664-ab8a-9d6bb700191e/a0d80994.csv>
34. <https://ppl-ai-code-interpreter-files.s3.amazonaws.com/web/direct-files/88bb025c2a1ad1ded0a1b880a54e2574/b2824ca9-4413-4664-ab8a-9d6bb700191e/62d28b2e.csv>
35. <https://ppl-ai-code-interpreter-files.s3.amazonaws.com/web/direct-files/88bb025c2a1ad1ded0a1b880a54e2574/b2824ca9-4413-4664-ab8a-9d6bb700191e/3f2be46a.csv>